



有限会社 茅ヶ崎方式英語会 102-0073 東京都千代田区九段北1-6-6 カサイビル I
 Tel/Fax 03-3288-2770 <http://www.chigasakieigo.com/> e-mail: info@chigasakieigo.com

はじめに

今年は猛暑、水不足、地震の頻発、水害とたいへんな夏でしたが皆様の地域はいかがでしたでしょうか。今回は愛知万博でボランティア活動された会員さんの楽しいお話などをご紹介します。

＊万博自虐ボランティア＊

名古屋緑校 C4会員 原田 孝子

もうすでに折り返し地点を過ぎた愛地球博。ボランティアに応募したのはちょうど去年の今頃でした。当初「5日～20日活動できること」というのがボランティアの応募の条件でしたがあとで「全員5日のみ」と変更されるほどの人気ぶりでした。私の応募の理由は、英語を使って少しでもお手伝いできればと思ったこと。そしてもう一つ、正直に言いますがボランティアになればチケットなしでもその日は万博を見られるだろうという下心もありました。事前にボランティア対象のオリエンテーションが一日あり、万博の紹介を少しと、あとほとんどはボランティア同士どうしたら人間関係がうまくいくかというシミュレーションをしました。これで外国人にうまく対応できるのかしらと不安を抱えたままもう本番。私の任務は開場から午後2時まで北ゲートの案内所の前で会場の地図を持って立つこと。何の心配もいりませんでした。初日、ボランティアリーダーさんから、お客様に何か尋ねられても勝手に答えないで近くにいる公式アテンダントにフルようにと指示があったのです。ほっとすると同時にこんなものだったのかと知りがつくり。北ゲートはメインゲートで、リニモからの入場者で一日中大賑わいで、開場と同時に押し寄せる大きな人の波は企業館に向かって流れていきます。お陰で企業館とマンモスへのアクセスだけは一人で答えられるようになりました。さて期待の外国人ですが、朝早く開場前から並んで待つような外国人はいませんし、企業館目がけて走る外国人もいません。お昼あたりからぼちぼち現れ始めましたが、「誰もこっちにはコントデス・・・」状態でした。残念ながら駆使した英語は、地図を渡しながら「Hello, English one.」のみでした。そしてもう一つ、ボランティアもただで入場は許されないことを活動が始まってから知りました。ざんねーん。ちゃんちゃん♪

＊英語は抜きん出た共通語＊

名古屋緑校 C3会員 倉上 雅子

愛知万博でボランティアをしています。ボランティア総数は約3万人。来場者の皆様に気持ちよく万博を楽しんでいただこうと、日夜交替で活動しています。

各国の人が行き交う国際色豊かな会場で、ボランティアは英語を駆使して華やかに活躍！と想像なさいますか？私もそう思っておりました・・・開幕前は。まさにそれがボランティア募集に応募した動機なので。私の活動場所は案内所の前。通りかかる方々のいろいろな質問にお答えします。実に様々な質問あり、ハプニングありで退屈しません。

ところで英語はどのくらい使ったのでしょうか？

活動初日 お父さんにおんぶされていた赤ちゃんに“Hi!”
 2日目 なし
 3日目 “Where is a bathroom?”と聞かれて“Over there.”

これだけです。英語が得意？な私としては、少々あてが外れました。でも落ち込んではいません。万博会場では各国語が飛び交っておりますが、やはり英語は抜きん出た共通語です。英語圏以外の外国館でも英語なら通じますし、英語圏の国ならもちろん、スタッフの方に展示品の説明や母国のことを聞くと、しっかりと答えていただけ、会話が弾みます。

茅ヶ崎方式英語会員の皆様、ぜひ万博を楽しみにいらしてください。そして、黄色のジャケットを着てがんばっているボランティアに出会ったら声をかけてください。

☒茅ヶ崎方式の学習効果☒

池袋校 C2会員 大橋 優加

私と茅ヶ崎方式との出会いは、昨年の春に職場で紹介された選択制の研修制度でした。社会人2年目を迎え、仕事にも少し慣れてきたので他に打ち込めるものを探していた私は、業務能力向上（といっても、今の部署ではほとんど英語は使いませんが・・・）と自己学習を兼ねて受講することにしました。「駅前留学」でおなじみの英会話スクールに混じってこの聞き慣れない会（！？）がリストにありインターネットで調べたところ、これこそ自分にとって興味のある勉強内容だと直感し、すぐに池袋校へ見学に行きました。初めてクラスに出席したときのことは忘れもしません。ワードテストでは専門用語が次々と流れ、日本語でも理解が容易でない英文をぎこちなく音読し、容赦ないスピードで話し続けるニュースを必死に聞き取り、訳すにも単語の意味がわからず支離滅裂になり、1時間半のクラスが終わったときには酸欠で意識が遠のくほどでした。果たしてやっつけていけるのか不安でいっぱいでしたが、大学では国際関係を学んでいたことから授業内容にはとても興味があり、自分を高める良い機会だと思って始めました。茅ヶ崎方式での学習効果をもっとも感じたのはリスニング力です。数ヶ月間リスニングの結果はほぼ変わらず自分はこのものかと諦めかけていたのですが、ある日のクラスで突然「あ、いつもより聞き取れる」と感じ、嬉しくて大田先生に報告してしまったほどです。実際に何がどの程度レベルアップしたのか知るために過去の教材を見直してみると、自分の傾向がわかりました。まず、初期のころは動詞、名詞、前置詞とも同じ程度で聞き漏らしており、2～3語ごっそり抜けていることも多くありました。しかもそれらの多くは、その日に意識しているテキストの新出単語ではなく、中学校レベルの単語でした。しかし最近は動詞・名詞の聞き取りが大幅にアップし、あとは微かに聞こえる前置詞の聞き漏れをなくすことが今後の課題となりました。また、今までは一字一句を必死に聴いていましたが、リスニングに慣れるにつれて文章を予測する余裕が出て、イディオムとして記憶できるようになりました。さらに、英語ニュース独特のフレーズを覚えたことで、時には「このパラグラフの出だしはあの単語かな」と賭ける楽しみ(?)もできました。こうしてリスニングに少し自信を持ち、先日NHKラジオの英語ニュースを聴いてみたところ北朝鮮問題やイラク問題などのニュースが流れ、教材で学んだ単語が次々と出てきたのには驚きました。生きた言葉とはこのことかと思い、ニュース自体をもっと知りたいと思うようになりました。そして、今までさぼり気味だった復習の大切さによりやく気づき、毎日1回でもテープを聴きなおすという日課が定着しつつあります。時事問題を英語で学べること、大田先生や他の先生方からテンポのよい授業が受けられること、そして他の方々の学習意欲をひしひしと感じられることから、私にとって茅ヶ崎方式は良い刺激になっています。語学学習には目的が必要不可欠であることを確信し、これからも日々のニュースに注目して時事問題と英語の双方を学んでいこうと思います。

お知らせ！！

毎日新聞社発行「毎日中学生新聞」の一面トップに週2回（月・水）掲載の、“Newsな英語”の英語ニュースを茅ヶ崎方式英語会が執筆しています。（8月10日より）

《下永谷校》

横浜市港南区

代表 山崎 和子

会員わずか3名でスタートした下永谷校ですが、あっという間に3年が過ぎました。仕事、介護、病人の看護と忙しい時間の合間を縫って勉強を続ける知的好奇心いっぱいのKさん、3年間一度も休まずマイペースで勉強し続けた頑張り屋のSさん、英語アレルギーと言いつつ何でもサラッとこなしてしまう優秀なHさん、そんな彼女たちが公開校移行にあたり、まるで自分のことのようにパンフレット、ホームページ作成に協力してくれました。彼女たちいわく、「英語がわかるようになるなんて最初は全然信じてなかった。茅ヶ崎の教材はすごい。私たちだけで勉強するのはもったいない。もっともっと広めましょう！」

この3人の努力と励ましのおかげで、ポツリポツリではありますが、新しい会員の方が増えつつあります。高校生から社会人まで新しい受講者の方々も、個性的で学習意欲のある方ばかり。皆さんでできるのに文法をもう一度やり直したいと、授業中は真剣そのもの。基礎を大切に、背伸びをしないで着実に勉強していこうという姿勢にはいつも感心させられます。私の方も授業中は学習者からの鋭い質問や思わぬ指摘に無我夢中です。

思えば、日本語教師をしていた時も、学習者に鍛えられ、教えられ、学習者と共に成長しました。英語の授業も同じです。受講者の積極的な参加、協力なしには授業は成り立ちません。以前、ある先生から言葉は「教える (teach)」のではなく「手助けする (facilitate)」するものだ、と教わったことがあります。英語を暗記するのではなく、英語を使うことができる。茅ヶ崎方式の教材を通して、受講者の方々が「英語を習得する」手伝いができたらと思います。そして、授業が終わって、会員の方々が一つでもいいから「今日はこれを覚えた！」という達成感を持ち、次の授業につなげることができるような授業をこれからも心がけたいと思っています。

🎧 学習者の声 🎧

下永谷校 C1、C2会員 藤澤 優美子

下永谷校の授業は、すごいんです。

1) 脳みそくすぐられます。

英文を聞き取る。その単純な作業にこんなにも、脳みそをくすぐられるとは思っていませんでした。茅ヶ崎方式の凄さです。集中して知っている単語をかき集め、それに合う日本語を探し出して答えることがこんなにも楽しいとは！驚きです。

2) 目から鱗を落とし続けています。

聞き取った内容も先生に解説して頂くと、「そうだったのか！」と素朴な感動が味わえ、今まで知らなかった新しい英語の世界が見えた感動し、時には「こんな事もわからなかった」と悔しさに唇を噛み締め、また些細なことでも先生に「できていますよ」と褒められて有頂天になったりと、授業中は感情の振幅が激しくなります。先生は、どんな質問もそらさずに受け止めてくださり(質問した本人がしまった！と思うような間抜けな内容でも)さらに色々な英語の使い方マジックを見せてくれます。今まで霧の彼方にボンヤリ見えていた英文が、はっきりとピントがあってわかるようになるのは快感です。

3) 授業は1粒で何度も美味しいです。

先生の使われる日本語が的確なのに驚かされます。日本語教師のお仕事もされていたとのこと、日本語のプロでもあることが大きいと思います。母国語でしっかりと意味を掴むことの大切さを痛感しています。英語を習っているのか、日本語を勉強しているのか？と一瞬考えてしまいましたが、いい加減に日本語を使っているのだと反省させられます。また教材の内容がニュースなので色々な事柄を知ることができ、授業中に他の方々とその内容について話すことが刺激になり、好奇心の幅が広がったこ

とを実感しています。

4) 絶対お得!

下永谷校の授業に参加して、私の人生丸儲けになりました。山崎先生、茅ヶ崎方式の教材を作成されている方々、本当にありがとうございます。そしてこれからもよろしく願います。

《可児桜ヶ丘校》

岐阜県可児市

代表 馬場 庸子

英語仲間3人からの出発

「ヒアリング力はすぐに力がつくのよ。茅ヶ崎方式をやるといいよ。」と、友人がヒアリングの苦手な私に教えてくれました。さっそく英語仲間2人を誘って中津川校へ見学に出かけました。道中の一時間半、わくわくしていたのを思い出します。「レベルのそろった仲間がいるなら自分達で始めることもできますよ。」という講師の言葉に促され、3人でCLASS2を始める事にしました。講師は3人が順番で務め、費用は折半、地域からの参加希望があれば受け入れると決めました。これが昨年4月の自主勉強会の発足です。

しばらくのうちに新たに4人の参加を得て、教材にも仲間との学習にも十分な手ごたえを感じました。半年くらいして“インプット中心の学習をもう少しアウトプットにつなげられないか”と思って今度は豊田校へ見学にいきました。CLASS3, 4を体験させていただき、講師のAll Englishに大変刺激を受けました。せめて私達も部分的All Englishをと思い、順番で用意して来たトピックについて全員が自由に英語で話す時間をとるようにしました。時には楽しい雑談に花が咲き笑いの渦となることもあります。充実したレッスンを続けていると自画自賛しています。

今年はCLASS3に進み、秋には豊田校の畑先生を招いてCLASS4のデモンストレーション授業を予定しています。形が落ち着くまでは試行錯誤の連続ですが、人との出会いを大切にして更なるレベルアップ、発展を目指していきたいと思っています。お世話になった講師の方々ありがとうございました。仲間の皆さんこれからもよろしく願います。

🎧 学習者の声 🎧

可児桜ヶ丘校 C3会員 後藤 敦子

郊外の丘陵地に住みながら、大の運転嫌いの私。いきおい活動範囲も狭く、英語との関わりも、自宅で気ままに新聞を読み海外ニュースを見る程度でした。それも独習となればおざなりになりがちで、全く読まないまま着々と英字新聞が増えてゆくということも。そう、茅ヶ崎方式を聞いたこともなかった私が参加することになったきっかけは、「徒歩五分」という利便性にあったのです。教材の内容や学習方法を調べた上で意欲的に「茅ヶ崎方式」を始めたわけではないのでごめんなさい。

受講して、まず思い知るのが、いいかげんに読んできたツケか、「知っているつもり」の記憶違いがけっこうあること。独習者が陥りやすい点と痛感しました。教材はよく吟味されており、文意に合った簡潔な表現を日・英ともに学べるのも、収穫でした。

また、リスニングテストの話題が多岐にわたるので、自分の好みや関心のあるニュースだけでなく幅広くフォローしておかなければ、と思うようになりました。経済関係など、日本語ですら理解不能のこともあります。

教材の構成は、Book2のように分野別にまとめられている方が私の場合、一時期集中して関連記事を読むようになる上、分野ごとの専門用語も反復により記憶し易かったように思います。

難度も上がり、あえぎつつではありますが、他のメンバーから得るところも多く、一人よりはずつとやる気がでます。安易な出発でしたが今は充実感を味わっています。

あとがき：酸欠で意識が遠のく、脳みそをくすぐられる、あえぎつつ・・・実感のこもった皆様の感想に感激です。引き続きお便りをお待ちしています。